

週日の説教

金 大烈 神父 2009年12月15日(火)

《悔い改め》

今日の福音(マタイ 21・28 32)では、イエス様は二人の兄弟を喩えとして話されています。

ある父親に2人の息子がいました。父親はまず兄のところへ行き、「仕事がたくさんたまっているので手伝って欲しい。」と言います。その時兄は、「嫌です。」と答えます。しかし考え直して、結局父親の言葉に従いました。父親は、弟のところへも行き、同じことを言います。すると弟は、「承知しました。そのようにします。」と答えます。けれども父親の望みには従わないで、手伝いに行きませんでした。

この話で兄にたとえているのは、いろいろな人々から罪人と言われ、自分達も罪人だと思っている徴税人や娼婦たちです。そして、弟にたとえているのは、多くの人々から尊敬され、高い立場にいて、「神様にきちんと従っている」と自慢をしていた律法学者達やファリサイ派の人々です。そしてイエス様は、律法学者やファリサイ派の人々に厳しく言いました。「あなたがたより徴税人や娼婦達のほうが先に神の国に入れるだろう」と。

この話については、一年か二年前の説教の時に、「このように二つに分けるのではなく4つに分けられる」という話をしたことがあります。「はい」と答えて、きちんとそのとおりにする人もこの世の中にはいます。(この話の弟のように)「はい」と言いながら、そのとおりにしない人もいます。また、(兄のように)「嫌」と言いながらもその言葉に従う人もいます。「嫌」と言って最後まで従わない人もいます。

しかしイエス様は今日の福音で、極端な二人を対象にして話されました。

もちろん、「はい」と答えて最後までそのとおりに実行するのが一番望ましいでしょう。また「嫌」と言って、最後まで従わない人もこの世の中には結構います。しかし、ほとんどの人々が迷いながら行くのが人生ですので、イエス様は、両極端なこの二種類の人々をたとえとして話されたのではないのでしょうか。

私がこの福音を読んで感じた一つのメッセージは、やはり最後が大切だということです。いろいろな失敗、いろいろな難しさに見舞われても、最終的によい結果を出せることが重要なのではないのでしょうか。

律法学者やファリサイ派の人々は、律法主義に陥っている人々でした。律法主義には、二つの特徴があります。一つは形式に捕らわれていること、もう一つは、文字にしばられていることです。律法学者やファリサイ派の人たちは、祈ること、守らなければならないことはいつもきちんと守っていました。しかし律法が人のために作られたことを忘れてしまっていました。律法を自分の権利を守るために使ってしまった。だから、だんだんもとの精神からはずれてしまい、人々を救う教えではなくて、人々を拘束する教えを話していたのです。

一方、徴税人や娼婦たちというのは、信仰を持っていない人々からさえも嫌がられる人々でした。子どもでも「この人達は人間として正しくない。」と判断できるような行いを見せてきた人々です。徴

税人は、自分の民族を脅迫して税金をとりたててローマに渡していました。そこから利益を得ていた
ので金持ちになるのは当たり前でした。でも、彼らには、自分の民族を裏切ったという罪の意識が
いつもありました。人々が自分達をどのような目で見ているかよく分かっていました。ですから実際
には、彼らはいつも希望を失っていました。そして、あの時代の娼婦とさえも生きるために体を
売っていました。よい条件、よい環境に生まれていたら、体を売って金を儲けようとする振る舞
いはしなかったでしょう。しかし、理由はどうであれ人々は体を売るという行為を責めます。「
人間らしくない」「獣である」誰もがそのような目で見えていました。それは、今の時代でも
同じでしょう。しかし、イエス様は、そのような徴税人や娼婦たちが先に、み国に入
れるとおっしゃったのです。

皆様、今日の福音を通してもう一回、考えてみましょう。

ある意味では、私たちは死ぬ時まで、「正しく生きています」と言う資格はありません。私
たちは、具体的に目に見える罪は犯していないかもしれませんが、やはり罪の中で生きて
いるのです。ということは、イエス様の心を傷めながら生きてることになります。それ
ならば、いろいろ間違いがあっても、罪を犯しても、最終的には、「私が悪か
ったです。考え直します。あなたについて行きます。」と言えるのがまことの意味
の悔い改めではないかと思えます。

結局、今日の福音のイエス様のみ言葉の意味は『悔い改め』です。『正しく悔い改め
られる人が天国に入れる』というとても単純なメッセージなのです。それなのに私
たちは、この言葉を心に刻んで生きていません。それがもどかしいです。皆
様、今日の福音をとおして、もし気がつくことがあれば、悔い改められる恵
みも与えられるでしょう。

ありがとうございました。